

# ナシ黒星病

## 発生生態

### 病徴

葉、葉柄、鱗片、花そう基部、果実、新梢に発生する。

花そう基部では、開花期頃に発生する（写真1）。

葉では、初め表面に退色した多角形の病斑として現れ、病斑の裏側には、黒色スス状の分生子を形成する（写真2）。また、葉の中肋や葉柄、果柄にも縦に長く、スス状の病斑がつくられる。

新梢では円形～楕円形の病斑がつくられ、後に健全部との間に亀裂が入って明瞭に境ができる（写真3）。

果実では、幼果の時期にやや円形、黒色の病斑がつくられ（写真4）、その後あまり拡大せずコルク化し、果実の肥大にともなって病斑部が陥没し（写真5）、亀裂が入る。



写真1 花そう基部での発生



写真2 新梢葉での発生



写真3 新梢での発生



写真4 果実（幼果）での発生



写真5 果実（収穫期頃）での発生

### 伝染経路

病原菌は、前年の被害落葉や、芽の鱗片で越冬する。被害落葉では、子のう胞子が形成され、4月中旬から5月下旬にかけて飛散し、一次伝染源となる。花そう基部では、開花期頃に分生子が形成され、降雨時に飛散し、同様に伝染源となる。その後、病斑上に形成された分生子は、降雨時に分散して二次伝染を繰り返す。

### 発生を助長する条件

開花直前から開花後約2週間までに降雨日が多いと、子のう胞子および分生子の飛散・感染が助長され、発生量が増大する。

### **防除のポイント**

- ・病原菌は、落葉で越冬し、次年度の伝染源となるため、落葉を集めて土中に埋める等適切に処分する。
- ・開花直前から開花後2週間までが重要防除期であるため、その時期の防除を徹底する。

### **参考文献**

- (1) ひと目でわかる果樹の病虫害－第二巻－（改訂版）／社団法人 日本植物防疫協会

### **写真提供**

- (1) 福島県農業総合センター果樹研究所